

大しめ縄 新しく 退休寺



集落総出で新しく奉納された大しめ縄

11月30日に、退休寺(小倉幸雄区長にある高岡神社(細谷雄允宮司)で大しめ縄奉納が行われました。高岡神社には昔から太さ60センチ、長さ3メートル40センチばかりの大きなしめ縄が祭っており、昭和60年に奉納した今のものを23年経過した今年、新しく付け替えることになりました。

きっかけは、今年の3月に集会所が新しくなったことで、区長の小倉さんが提案。事前に各戸1人の参加を原則として呼びかけ、11月22日と23日に、子どもからお年寄りまで約30人の幅広い世代が力を合わせて、集会所で作業しました。当時の経験者は3人しか残っておらず、指導には『しめ縄』に詳しい樋口の金平文雄さんと赤川進さんの助けを受けながら行われました。

2本ある太さ約30センチの芯を大人15人ぐらいがタイミングよく絡ませ一本のしめ縄にする様子は圧巻でした。初めての方がほとんどだったこともあり、朝9時にスタートしたしめ縄が完成したのは夕方5時頃で日没前ぎりぎりでした。金平さんによると「難しいコモ編みがあったよりうまくいき、しめ自体も整って良いできた」と満足げな表情でした。30日には宮司さんに奉納祭を執り行っていたいただき、退休寺集落の大行事は無事終わりました。

大山の恵みを表現

大山小学校(金田吉人校長、全校児童101人)では昨年、命の源流を大山から学ぶとして「大山の恵み」教育構想を立ち上げ、米づくりや施設のお年寄りとの交流、宿泊体験などさまざまな体験活動を取り入れ学習しています。

11月28日(金)、活動を通じてお世話になった地域や施設の職員のみなさんや保護者、保育所の年長児ら約100人を招いて「大山の恵みに感謝する会」を開きました。各学年の児童代表が前にお礼の言葉を述べたり、今年とれたもち米でもちつきをして、きなもちにしてみんなで食べ、収穫の喜びを分かち合いました。

中でも、全校児童で1つの物語に仕上げた新しい創作表現活動「大山の恵」の初お披露目があり注目を集めました。

これは全校で昨年から少しずつ作ってきたもので、大山の素晴しさや自然の豊かさを群読や朗読劇、踊りなどで表現したものです。大山に住む主人公のオオタカがみんなのはげまして飛べるようになり、大山を自由に飛び回り自然や歴史、それを守る人たちに出会い成長していくという物語です。最後は5・6年生が演奏する竹太鼓が鳴り響くなか、すべての命の守り神として体長約10メートルの赤松の池伝説に出てくる龍が登場し、赤松分校児童が力強い龍の舞をみせ、観客からたくさん



の拍手が送られました。